

# 本願力

横浜別院だより

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院  
横浜市港南区日野一十一-八

FAXTEL (045) 841-1343  
(045) 841-1342  
(http://www.yokohama-otani.com)

## 雑感 八

輪番 坂田 智亮

暖冬とはいえ、過ごしやすい日が続くのもあまり歓迎すべきことではないようだ。四季折々の中に育まれてきた風土、風習が今や怪しい。まして、コロナウイルス集団感染拡大、この旋風は世界へ蔓延しつつあり、人の大勢集まるイベントなども順次中止を決定して、健康被害への不安を一層駆り立てている。ダイアモンドプリンセス号にご乗船の皆様方、また、感染された皆様にはお気の毒と言うより言葉がありません。今や、どこにいてもだれもが感染犠牲者になるかもしれない状況にあり、兎も角、一刻とも早い終息を願うばかりである。

宗祖親鸞聖人の時代にも、天変地異が起り疫病などが流行り混乱を招いたことは様々な文献があつて人々の動揺と混乱は今に残されているが、長い歴史の中、幾たびもあったこのような突然到来する生活への不安に人々はどうか向き合ってきたのでしょうか。

呆然と立ちすくみ泣きながら通り過ぎていくのをただ静かに待ったのか。自分の力ではどうしようもないことと明らかに悟って諦め、力の及ばないことだと認識して、受け入れ、応じて生き繋いできたのでしょうか？

目覚ましい発展を遂げたと言われる今世紀、この

科学万能主義社会に生きる人間は、労働、苦悩苦痛を取り除くためにロボットを始めとするその開発と進化、ネット社会を構築して、情報を駆使して整備共有していく。また、AIの発達等々、社会生活環境を自らの手で作り整え創造して、その中で安楽に生きることを目指した。その結果、いのちの操作を含むあらゆる手段をすべてを自ら制御できるかの如く錯覚してしまった感がある。しかしながら、どこまでも自然が与えてくれた大きな条件の中でしか生きていくに過ぎないこと、自然の中で生きていく限り災害・災難を含んでいるということ、また何時いかなる時代も、無常なる営みの中に愚かでささやかないのちをつないで生きるしかない、支えあう共生的存在であることなどは決して忘れてはならない、人間の基本的必須条件だと思われる。

・・・ファーストという個別的傲慢な存在価値的在り方がやたらに目立つ昨今、ともかく声なき警鐘が聞こえてくると思うのは過ぎた思いであらうか。

「人類は地球が優しい時にだけ少し許されて生きていく」

「普共諸衆生 往生安楽国」諸々の衆生とは、底下の凡夫のこと、そこに漏れる人間はなく、「健全な緊張感と謙虚な姿勢」によってこそ、自らのいのちに育まれてきた背景を知り、自らの使命を感得できる。そして「本願を信じ念仏申す」ほかないわが身に遭遇し直す。弥陀の本願は念仏として相続されてきたのだという想いを深くしている。

「さればよきことも、あしきことも、業報にさしまかせて、ひとえに本願をたのみまいらすればこそ・・・」

『歎異抄』十三章

同朋の会 九州研修旅行  
福岡県みやま市 法讃寺参拝





## 同朋の会九州研修旅行 福岡・佐賀(十一月十一日～十三日)

数年前から計画があがっていた同朋の会九州研修旅行を行なった。生前、加納靖夫氏が輪番の自坊(福岡県みやま市法讃寺)を参拝しようと門徒に呼びかけていたこともあり、今回の研修旅行が実現された。職員を含む十七名が羽田空港から福岡空港に向けて飛びたったわけである。一日目は、福岡空港から貸切バスに乗って移動し、輪番の自坊に参拝する行程であった。福岡県みやま市は自然豊かな場所ので、のんびりとした雰囲気漂う町であった。寺院に着くと早速勤行を行ない、輪番より自坊の由緒・沿革をお話いただいた。

谷川山法讃寺開基は、坂田近江守則房の子坂田太郎左衛門則兼が発心して、上妻郡谷川村兼松に居住し、俗名を改め道永と称し、寛文六年(一六六六年)上妻郡谷川村兼松に一字を建立し、寺号を谷川山法讃寺と称す。その後、当時、真宗寺院のなかった小田千石の要請により、天和三年(一六八三年)瀬高町小田(現在地)に移転し、現在に至る。お話の後は、



→ 法讃寺

座敷でお茶をいただき、記念撮影をしてから、宿泊先である柳川市に移動した。

二日目は柳川散策を朝から行なった。柳川は、うなぎや川下りの観光地として有名であり、また御花(柳川藩主立花邸)、北原白秋生家・記念館などもある。特に印象深かったのは、旧柳川御坊触頭・眞勝寺に参拝したことであった。眞勝寺は、初代筑後国主田中吉政の菩提寺であり、私家本の故郷(滋賀県高島市安曇川町田中)出身の方であった。滋賀県から遠く離れた福岡県でこんな出会いをさせていただいたことに不思議なご縁としかいいようのない思いであった。ちなみに、田中吉政は関ヶ原の戦い(一六〇〇年)で敗れた石田三成を捕まえた功績により、国主となった人物である。丸一日柳川を散策した後は、佐賀県の嬉野温泉に向かって出発した。温泉に向かう途中で、備前屋という酒蔵にも立ち寄り、お酒の試飲なども楽しんだ。佐賀県嬉野市は、



→ 田中吉政の墓



→ 川下りの様子

長崎県との県境に位置し、嬉野温泉は九州屈指の名泉として知られている。

三日目は唐津市呼子に移動し、遊覧船と名物のイカを堪能し、海鮮物の買い物をし、福岡空港から横浜へと無事帰路に着き、三日間の日程が終了した。

参加者からは、大変貴重な体験をさせていただき、素晴らしい研修旅行となった。とお声をいただいた。私自身は、お金では買えないものをたくさんいただいたと感じ、大変ありがたいご縁であった。(文責家本)

## 第二回浜別サンガ(十一月十六日) 節談説教 中村亜由美 師(泰山寺住職)

今年で二回目となる浜別サンガ(門徒交流会)が開催された。中村亜由美氏による節談説教が始まると、参加者は集中して耳を傾け、一言一言に心が動かされたようであり、好評でした。(文責家本)



## 「別院だより発行月が替わります」

横浜別院だより「本願力」は、今年三月号より、年四回(三月、六月、九月、十二月)の季節号として発行することになりましたので、発行月が替わります。

## 【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうゝき】

第三十一回 神奈川ブロック聖典学習会  
講師 尾畑文正 師（同朋大学名誉教授）

今回より『仏説無量寿経』四十八願について、尾畑文正先生に講義をいただくことになりました。初回ということもあり、二十人を越えるたくさんの方の参加者があり、一般参加者も数名いました。尾畑先生は、「七高僧の歴史を通して、念仏もうされてきた歴史に立ち返り、四十八願を読んでいきましょう。」と四十八願の原文にすぐに入らず、導入部分から丁寧にお話をいただきました。特に印象的だったのは、「ひとりの国王が世自在王仏の説法を聞いて深く喜び、そこでこの上ないさとりを求める心を起し、国も王位も捨て、出家して修行者となり、法蔵と名乗ったのは、たまたま国王が仏法を聞いたからということではない。国王自身が問題としていたことを尋ねたからであり、国王が抱えていた課題が四十八願に表現されている。」というお話でした。四十八願をそのように考えたことはありませんでしたが、頷かされました。次回から四十八願の原文に入ります。

（文責家本）

→ 尾畑文正 師



## 『神奈川四ヶ組行事予定表』

## 《神奈川四ヶ組》

## 【横浜親鸞講座二〇一九】全七回

【日時】第六回 三月十四日（土）

【日時】第七回 四月十八日（土）

※全日程十四時より十六時まで

【講師】海法龍氏（横須賀市・長願寺住職）

【テーマ】人間とは何か、歎異抄に聞く

【会場】崎陽軒ビルヨコハマジャスト

一号館八階（横浜駅よりすぐ）

【参加費】一回千円

## 【神奈川ブロック聖典学習会】

【第三十二回】【日時】四月十六日（木）

【第三十三回】【日時】六月八日（月）

午前十時四十五分～午後四時

【講師】尾畑文正 師（同朋大学名誉教授）

【学習聖典】『仏説無量寿経』四十八願

【参加費】千円 ※当日受付

【聴講対象者】僧侶、寺族、一般希望者

【持ち物】念珠、真宗聖典、筆記用具等

【会場】本願寺横浜別院

## 《横浜組》

## 【横浜組門徒研修会】

【第一回】

【日時】四月十七日（金）十四時～十六時半

【講師】三島多聞 師（高山別院輪番）

【会場】本願寺横浜別院

【第二回】

【日時】五月二十五日（月）十四時～十六時半

【講師】鶴見美智子 師（小港西教寺前坊守）

【会場】本願寺横浜別院

## 【横浜組声明儀式研修会】

【日時】五月二十日（水）午後一時半～

【講師】管生考純 師（京都教区光明寺住職）

【会場】本願寺横浜別院

## 《三浦組》

## 【二〇二〇年寺子屋】

【第二回】

【日時】三月四日（水）午後一時～

【講師】狐野秀存 師（大谷専修学院長）

【会場】来福寺（三浦市南下浦町上宮田）

【第三回】

【日時】四月八日（水）午後一時～

【講師】渡邊浩昌 師（三重県西願寺前住職）

【会場】浄栄寺（横須賀市吉倉町一三三）



— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 —

2020年3月～5月

～どなたもご自由にお参りください～

**春季彼岸会法要** 午後1時30分より

3月19日（木）・20日（金・祝）

【法話】近藤 龍磨 師

（岐阜教区第11組廣専寺住職）

お彼岸は、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶと共に、自分の生活を振り返る大切な時です。有縁の皆様におかれましては、ぜひご参詣ください。

**永代経法要** 午後1時30分より

5月28日（木）・29日（金）

【法話】海 法龍 師

（横須賀市長願寺住職）

この法要は、私までいのちを届けてくださった先輩・先達に想いを馳せ、そこに相続されてきた本願のみ教えを聞きひらき、私の人生を問い直す大切な御仏事であります。

末法濁世の様相を呈して混迷を深めていく現代社会にあって、いよいよ真実の教法に照らされて生きることが願われるのであります。どうぞご参詣ください。

**定例法話** 午後1時30分より

3月9日（月）横浜組 利正寺 渡辺正法 師  
 3月28日（土）別院 輪 番 坂田智亮 師  
 4月9日（木）三浦組 光龍寺 宮川正道 師  
 4月28日（火）別院 輪 番 坂田智亮 師  
 5月9日（土）横浜組 西教寺 伊藤大信 師

※5月28日の定例法話は休みです。

**別院同朋の会日帰り研修旅行**

4月15日（水）【参加費】7,000円

【行程】報佛寺（茨城県）【定員】20名

（唯円開基寺院、親鸞聖人御旧跡等）

※詳細は別院までお問い合わせ下さい。

締め切りは三月三十日です！

**グリーフケアのつどいのご案内**

【日時】4月11日（土）午後2時～

6月13日（土）午後2時～

突然起きてくる人間の悲しみに共感を求めてグリーフケアを行なっています。

※参加費・申し込みは不要です。

詳細はチラシをご覧ください。

**正信偈の会が始っています！**

【日時】3月9日（月）10:30～12:00

4月9日（木）10:30～12:00

5月9日（土）10:30～12:00

正信偈（同朋奉讃式）のお稽古を行ないます。初心者歓迎！参加無料です。

※前日までに申し込みください。

詳細はチラシをご覧ください。

## 編集後記

今年の冬は記憶に残る冬となりそうです。記録的な大暖冬で、冬らしくない冬が過ぎました。大雪は困るが、雪が全くなくとも困る。そんな声が多く、スキー場から聞かえてきました。こんな雪が積もらない年は記憶にありませんが、地球温暖化の影響だということ。それと、新型肺炎により世界中が大混乱しています。すが、一刻も早い終息を願うばかりです。

さて、お彼岸の季節がやってきました。お彼岸が過ぎると、桜の季節、ゴールデンウィーク、初夏と目まぐるしく季節は移り変わり、そして、東京オリンピック・パラリンピックの季節となります。別院・神奈川教化センターは四月から新年度となりますが、様々な行事を予定しております。一人でも多くの方のご参詣をお待ちしております。

（家本）